



▲ドローンでの農地撮影や農薬散布でコスト削減と品質向上が実現

検査をするという、きつかけになれば助かる人も多いでしょう。

菅谷…これから社会保障費は増大していきます。AIや画像解析技術を使うことによって社会保障費の増加を抑え、税負担が増えずに済むような行政モデルに多久市がなれたら、非常に革命的だと思います。

市長…多久市はコンパクトな自治体なので、今が近未来型の行政に変わっていきけるチャンスだと思っています。例えば生まれてから天寿まで医療データを連結させて、健康維持に活かすとか、活用が広がります。



▲AIや画像解析を活用して、眼底写真を解析します



オプティムが取り組む新事業

市長…今後は、どんな展開をされますか？

菅谷…冒頭にも出た無農薬農業の需要が、これから高まると思います。必要な箇所だけに農薬を散布する「ピンポイント農薬散布」が世界的にも注目を集め始め、世界のテクノロジーのトレンドとしても注目されています。実は日本の有機栽培・減農薬栽培の市場は、とても遅れているんです。今の日本の野菜やお茶は海外での農薬の規制に引っかかって輸出できない場合もあるんですよ。

世界的に所得が上っていくにつれて健康志向になっていて、日本で作られたものは世界が欲しいです。我々と生産者が連携して、多久市でさまざまな野菜を作り、それを東アジアに輸出していく。それで生産者も豊かになれば、多久市のみならず日本の地方は活性化していくと考えます。



未来への抱負

菅谷…私は常々、地方にこそAIのチャンスがあると思っています。人口減少や高齢者の増加という課題は、どの地域も抱えています。これまでと同じ行政サービスを受け、生活の質を維持するためには、AIを活用せざるを得ないレベルになっています。

横尾市長のリーダーシップのもと、最先端のAI・IoTを活用し、多久市のみなさんに幸せをお届けし、役に立つような仕事ができるかと非常に嬉しいです。

市長…論語カルタに「仁を問う

子曰わく「人を愛す」とあります。人を愛すとは、人を大事にし、幸せになるように愛情を注ぐことという意味で、それが行政や政治、経済が繁栄する基だと思えます。この教えを常に忘れず、新しいものは積極的に取り入れ、改善すべきは勇気を持って取り組んでいきたいですね。

また、亥（猪）年という猪突猛进と言いますが、猪突はせずともスピード感は忘れてはいけません。成功するまで諦めず、何度でも挑戦する姿勢を大事にしたいですね。

市民のみなさんが新しい未来にチャレンジできるように、市としては応援していきたいし、そういったステージを作れるよう取り組んで参ります。本日は、ありがとうございました。

